香美市長 ―２期目スタート―

法光院 晶一

３月１８日告示の任期満了に伴う香美市長選挙で無投票再選。２期目。任期は４月９日～平成３４年４月８日。専修大卒。昭和４９年、旧物部村役場入り。香美市福祉事務所長、総務課長を務め、平成２３年退職。平成２５年まで特別養護老人ホーム施設長。大川村出身。土佐山田町間在住。６７歳。趣味は釣り。

市民の皆さまの声を聞きながら、地域を元気にするまちづくり

平成18年３月に香美市が誕生し、はや12年の歳月がたちました。この間、ＩＴ技術の進歩やグローバル化、深刻化する少子高齢化社会など、私たちを取り巻く環境は大きく変わりました。

私は第二代香美市長として、平成26年からの４年間、香美市の発展のため全力で取り組んでまいりました。その中で、香美市が抱える多くの課題や、解決すべき問題に直面することとなりましたが、しかし同時に、このまちが持っている可能性や、たくさんの魅力にも、改めて思いを致すこととなりました。

香美市には、顔と顔が見える地域の絆があり、誇るべき文化があり、脈々と受け継がれてきた伝統があります。香美市の良さに光を当て磨き上げることで、このまちはもっと良くなると信じ、２期目の市政運営に全力を尽くしてまいります。

■地場産業の振興

地域に元気を取り戻すためには、何より地域の経済を元気にしなければなりません。農業と林業は共に香美市の基幹産業ですが、従来どおりの経営ではなく、新しい価値を見いだし、付加価値をつけて売り出していく必要があります。

香美市が誇る伝統産業、土佐打刃物やフラフにしても同じことが言えるのではないでしょうか。魅力的な素材はすでにあります。人々が長い年月をかけて育んできた魅力的な商品に、どのような付加価値をつけ、どのように発信していくか、それが重要であると思うのです。後継者を育成していくための仕組みづくりとともに、全力で支援してまいります。

また香美市には、アンパンマンミュージアムや龍河洞など、県内でも有数の魅力的な観光地があります。これらをさらに生かしていくために、香南市や南国市などとも連携しながら、広域的な取り組みを進めていきたいと考えています。

■子育て応援と教育の充実

未来に向けて市が発展していくためには、教育の充実が不可欠です。将来を担う人材を育てるため、小中高等学校、大学による連携をさらに推進し、一体的な教育を行ってまいります。

これまでの教育施策が功を奏し、市内小中学校の学力は向上しています。子どもたちが未来の担い手として香美市を支えてくれるよう、高校・大学と連携しながら、教育によるまちづくりに力を注いでまいります。

また、子育ての包括的な支援充実を図り、『子育てしやすいまち』を目指すことで、若い世代が定住し、活力ある香美市をつくり上げていけると考えています。

■市民参加の開かれた行政

これまで以上に市民の声に耳を傾け、市政に生かす取り組みを進めてまいります。行政の進もうとしている方向をしっかりとご理解いただきながら、意欲のある地域や個人、団体を大いに応援し、市全体の活性化につなげていかなければならないと考えています。